

## 生物多様性地域戦略策定の手引き（概要）

### 1. 策定の背景

第三次生物多様性国家戦略（平成 19 年 11 月閣議決定）では、地方公共団体の参画の重要性が基本戦略の中でも明記され、生物多様性基本法（平成 20 年 6 月施行）では、地方公共団体の責務や生物多様性地域戦略の策定の努力義務が規定されました。

また、国際的にも、生物多様性条約第 9 回締約国会議（平成 20 年 5 月）で「都市・地方政府の参加促進決議」が採択されています。

このような動きを踏まえて、環境省では、国民の生物多様性に対する理解を深め、「自然共生社会」を構築するために、国、地方公共団体、事業者、国民及び民間の団体といった多様な主体が参画・連携し、生物多様性に関する取組を推進するための施策を展開しており、本手引きはその一環となるものであり、平成 21 年 9 月にとりまとめました。

### 2. 手引きの目的・位置づけ等

#### (1) 目的

本手引きは、生物多様性基本法第 13 条に基づいて、都道府県、市町村が生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画（生物多様性地域戦略）を策定する際に参考となるような基本的な情報（生物多様性地域戦略の必要性、策定・推進・進行管理の考え方、手法等）を示すことを目的としています。

#### (2) 位置づけ

本手引きは、生物多様性地域戦略を策定する際に、その地域の実情に応じて、地方公共団体が合理的と判断される範囲で活用されることを想定しています。

また、この手引きは、現段階での知見等をもとにまとめたものであり、今後、生物多様性の状況や、国際的な取組の進展、社会的な理解や知見の集積、地方公共団体の取組の状況等に応じて、段階的・発展的に改訂していく予定です。

#### (3) 対象

本手引きは、主に、都道府県・市町村の実務担当者を対象としています。また、地域の幅広い関係者にとっても地域の生物多様性を考えるための参考となる情報が含まれています。

### 3. 手引きの構成

はじめに

第 1 部：生物多様性地域戦略の必要性

第 2 部：生物多様性地域戦略の策定・推進・進行管理の全体像

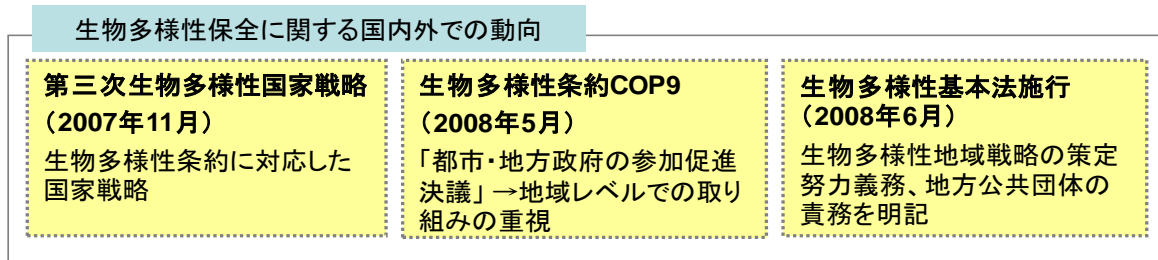
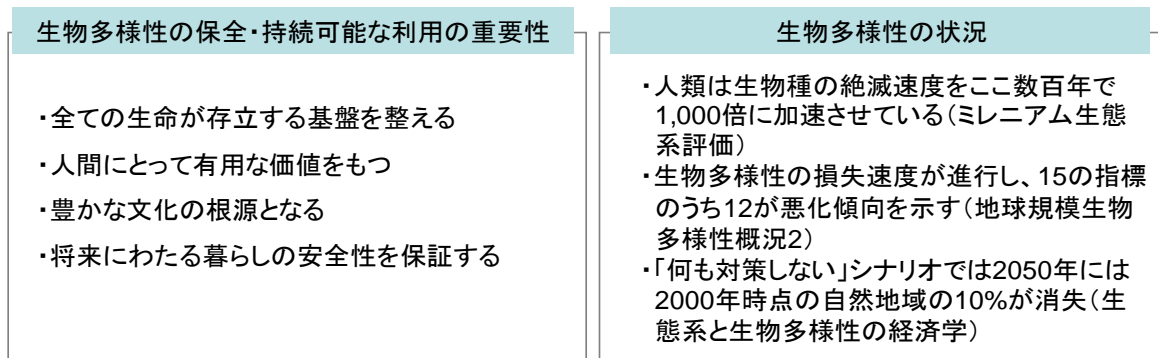
第 3 部：生物多様性地域戦略の策定過程等における参加・連携等の手法

第 4 部：生物多様性地域戦略の内容検討及び推進・進行管理の手法

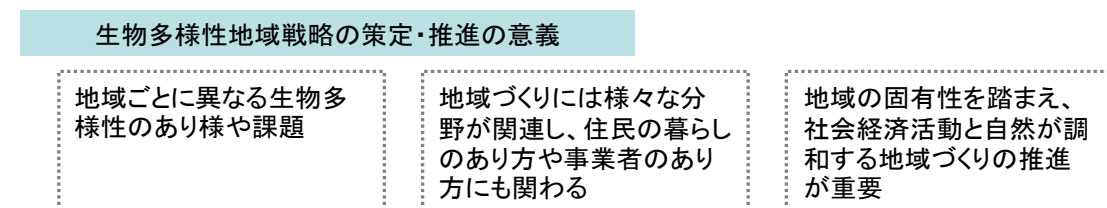
## 参考資料

1. 生物多様性基本法
2. 生物の分布や保護地域、土地利用等に関する既存の国等のデータ
3. 第三次生物多様性国家戦略の施策の体系
4. 生物多様性に関する法律の概要
5. 生物多様性地域戦略等の事例  
事例 1：第三次生物多様性国家戦略  
事例 2：千葉県「生物多様性ちば県戦略」  
事例 3：滋賀県「滋賀県ビオトープネットワーク長期構想（ビオトープネットワーク図）」  
事例 4：兵庫県豊岡市「コウノトリの野生復帰への取組をきっかけとする生物多様性保全の取組」
6. 生物多様性評価の事例：環境省 生物多様性総合評価の概要

## 4. 手引きの概要



## 生物多様性地域戦略策定・推進が必要



地域の持続性確保、地域の活性化につながることも期待できる  
→ 魅力溢れる地域づくりへ

## 生物多様性地域戦略の要件・構成

### 生物多様性基本法

#### □基本原則(第3条):

- ・地域の自然的社会的条件に応じて保全する
- ・国土・自然資源を持続可能な方法で利用する
- ・順応的アプローチ、長期的視点で保全・利用する
- ・地球温暖化問題との相互関係を認識する

#### □地方公共団体の責務(第5条):

- ・地方公共団体は、基本原則に則り、国の施策に準じた施策、地域の自然的社会的条件に応じたきめ細かな施策を策定・実施する

#### □地方公共団体による施策の実施(第27条):

- ・地方公共団体は、総合的かつ計画的な推進を図りつつ施策を実施する

#### □生物多様性地域戦略の策定等(第13条):

- ・地方公共団体は生物多様性国家戦略を基本とし、地域戦略の策定に努める(努力義務)

#### 生物多様性地域戦略で定めるべき要件(第13条第2項)

- ①対象とする区域
- ②区域内の生物多様性保全・持続可能な利用に関する目標
- ③区域内の生物多様性保全・持続可能な利用に関する総合的かつ計画的に講ずべき施策

## 多様な主体の参加・連携の手法について

### 自然共生社会の実現には多様な主体による取組が必要

#### □参加・連携促進

#### □庁内関係部局との調整

#### □策定段階から推進・進行管理(PDCA)を通じた関係主体の協力

#### □民意の反映等

#### □地域の実情に応じた効果的・効率的な参加連携手法

##### ①参加・連携の手法(例)

- ・専門家や関係団体へのヒアリング・アンケートの実施
- ・懇談会・検討会の設置
- ・パブリックコメントの募集等

##### ②周知・広報の手法(例)

- ・印刷物の作成・配布
- ・ホームページ上での公開
- ・自治体の広報紙への掲載等

##### ③庁内関係部局との調整手法(例)

- ・関係部局による連絡会議・ワーキンググループの設置
- ・照会等

## 生物多様性地域戦略の内容検討・推進・進行管理の手法について

#### □現状と課題の整理:

- ・地域特性やこれまでの取組を踏まえ、課題の整理、戦略の組み立て方・効果等を検討

#### □対象区域、目標の設定(生物多様性地域戦略の要件):

- ・行政区域を越えた課題については、広域的戦略の策定も考慮
- ・地域特性を考慮し、定性的/定量的目標を設定
- ・対象区域や目標には時間スケールも考慮

#### □施策の立案・体系化:

- ・新規施策の立ち上げ
- ・既存施策への生物多様性の視点を反映・内部化
- ・対象区域の規模に応じた施策の検討

#### □推進体制の検討:

- ・様々な主体との協働→庁内外における役割分担、連携体制の構築重要
- ・人的ネットワーク(研究者、地域ボランティアなど)の活用や構築

#### □進行管理の仕組みの検討:

- ・施策の進捗状況や目標の達成状況の点検・評価の仕組みを検討(モニタリング等)
- ・点検・評価を踏まえた見直し・改善の仕組みを検討

### 参考資料

1. 生物多様性基本法
2. 生物の分布や保護地域、土地利用に関する既存の国等のデータ
3. 第三次生物多様性国家戦略の施策の体系
4. 生物多様性に関する法律の概要

### 5. 生物多様性地域戦略等の事例

- 事例1: 第三次生物多様性国家戦略
- 事例2: 千葉県「生物多様性ちば県戦略」
- 事例3: 滋賀県「滋賀県ビオトープネットワーク長期構想(ビオトープネットワーク図)」
- 事例4: 兵庫県豊岡市「コウノトリの野生復帰への取組をきっかけとする生物多様性保全の取組」
6. 生物多様性評価の事例: 環境省「生物多様性総合評価の概要」